

みんなのミュシャ ミュシャからマンガへ 一線の魔術

Bunkamura ザ・ミュージアム (渋谷) 2019. 07. 13～09. 29



「アルフォンス・ミュシャ」(1860～1939)は、優美な女性や洗練された植物文様で知られる「ミュシャ・スタイル」を武器に19世紀末のパリで人気を集めた画家で、“**パリに咲いたスラブの魂**”と呼ばれている。本展は、彼が手掛けた「ポスター」などの代表作はもとより、強い影響を受けた明治期の「文芸誌の挿話」、1940年代にアメリカ西海岸やロンドンで一大ムーブメントを巻き起こ

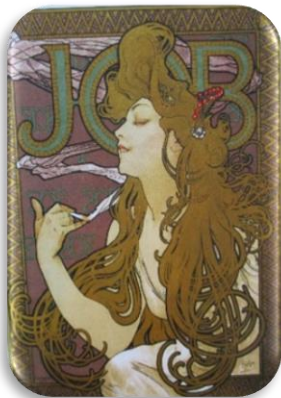
した「グラフィック・アート作品」、さらに「サロメ日本のマンガ家やアーティストの作品」など「250点以上」で構成され、これらの優れた作品を通して時代を超えて愛される秘密を紐解くという企画である。

左 : 《モナコ・モンテ＝カルロ》 1897年 リトグラフ

地中海沿岸の人気の高いドル箱路線を走らせる鉄道会社のための「ポスター」作品で、地中海を背景にして旅への憧れを象徴するような若い女性を囲む円形にアレンジされた花に、ゆるやかな曲線を描く4本の茎は列車の車輪とレールを暗示している。

右 : 《ダンス：連作（四芸術）より》 1898年頃

朝の爽やかな風とともに葉が舞う情景を示して、その中で一人の女性が踊っているが、彼女はこちらに背を向けつつ顔はこちらを向いており、衣装や髪は伸び伸びと曲線を描いて広がっていて、とても優雅でかつ素早い動きが表現されている。



《ジョブ》 1896年 リトグラフ

ジョセフ・バルドー社の煙草の巻紙「ジョブ」宣伝ポスターで、女性が右手に持つ煙草からは煙がジグザグ状にたなびいて上にのぼっていく。夢を見るような表情をした女性像は、巨匠のトレードマークとされ、豊かな大きな髪は、ウーマンの象徴的イメージとして、当時「ミュシャのマカロニ」と形容された。

モザイク模様の外枠と大きな商品名「JCB」の文字、背後に

はモノグラム（組み文字装飾）の構図が描かれている。